

No.204 イスラエル・ユダヤ・中東がわかる隔月刊雑誌 2026 2

みるどす



ガザ停戦——戦争は終わったのか ◎齋藤真言



使徒言行録の著者ルカ ◎藤原豊樹



雲の中に私の虹を置いた

(創世記 9:13)



ミルトスはイスラエルに育つ低木。常緑でその葉は芳香を放ち不死と成功の象徴とされた。(イザヤ 41:19)

中東・イスラエル情報

■イスラエル並びにユダヤ人に関するノート■

緊迫するイラン情勢 —— 佐藤 優 6

■知っておきたい中東・イスラム■

新しい中東の枠組み —— 光永光翼 13

■日本・イスラエル コラボレーションの道■

発展に向けてのイスラエルへの“苦言” —— 新井 均 20

■日本の非常識からみた中東の非常識■

ガザの環境汚染問題 —— 滝川義人 28

■イスラエル 多角多論■

ガザ停戦——戦争は終わったのか —— 斎藤真言 32

聖書・歴史

●聖書の世界 エッセイ●

静かなる誠実 —— 池田 裕 48

●サムエル記講話●

ダビデの慈しみ —— ラビ・ベニー・ラウ 56

●目からウロコの新約聖書●

使徒言行録の著者ルカ(上) —— 藤原豊樹 60

●ちょっと得する聖書のお話●

イエスが払った半シェケル —— 谷内意咲 66

エッセイ

▲表紙によせて▲

雲の中に私の虹を置いた —— マカベアリス 4

▲イスラエルから学んだこと▲

「失われた10部族」の探索 —— 田中猪夫 40

表紙:「雲の中に私の虹を置いた」【刺しゅう・マカベアリス】

シネマレビュー 46

ブックレビュー 70

声のひろば 72

編集後記 74

表紙によせて

אֶת קַשְׁתִּי נָתַתִּי בְּעֵד

雲の中に私の虹を置いた

マカベアリス

雨がようやく止んだことを確かめて、外に出た。数日続いた長雨の後の久しぶりの買い物。食料品を買い込んで、ずつしりと重くなつた袋を下げ、私は家路へと急いでいた。季節は初夏だつただろうか。湿り気を帶びた雨上がりの空気の中、さつきまで覆つっていた厚い雲が切れ、青空がのぞき始めていた。

公園の近くまで来ると、小さな子どもたちが歓声を上げながら遊び始めている。それを見守る親たちや、散歩に出てきた年配の人たち。

ふと、子どもたちから大きな声が上がる、「虹だ！」。そこにいた人々と私は、思わず振り返つた。見上げると青い空にくつた見知らぬ人々との間に温かい空気が流れる瞬間——それはほ

声が上がる、「虹だ！」。そこにいた人々と私は、思わず振り返つた。見上げると青い空にくつた見知らぬ人々との間に温かい空気が流れる瞬間——それはほ

緊迫するイラン情勢

再燃するイランの脅威

Z君、ガザ紛争に関してイスラエルによるハマス中立化作戦はほぼ成功しました。もともとイデオロギーとしてのハマスはガザ地区において無視できない影響力を持ち続けていますし、ハマスの武裝勢力も、1年前と比べると著しく弱体化したとはいえ、残存しています。イスラエルのガザにおける

ハマス掃討作戦は今後も続きます。

他方、イランの脅威が再び深刻になつてきました。去年12月29日、イスラエルのネタニヤフ首相がトランプ米大統領と会談した際にもイラン問題が取り上げられました。

（日本時間30日未明）、米南部フロリダ州でイスラエルのネタニヤフ首相と会談した。6月に米軍が攻撃

したイランが核・弾道ミサイル開発を再開すれば「彼らをたたきのめす」と述べ、再攻撃に言及した。

ダ州パームビーチにあるトランプ氏の邸宅「マール・ア・ラーゴ」。28日にはウクライナのゼレンスキーダー統領を招いており、2日連続の外国首脳との会談になつた。

トランプ氏はネタニヤフ氏を出迎え、記者団の質問に答えた。「イ

佐藤
優



〔摄影：森清〕

新しい中東の枠組み

光永光翼

UAEとの関係強化

昨年末に始まつたイラン抗議デモは、今も先が見えない状況である。中東はこれからどうなっていくのか。

2020年9月に結ばれたアブラハム合意の現状を確かめながら、イスラエルを軸に今後の中東情勢を展望してみたい。23年10月より始まつたガザ戦争では、ガザに侵攻したことでイスラエルが非難され、アラブ諸国と

イスラエルの外交関係は冷え込んだ。その一方で、アブラハム合意を結んだ国々は、イスラエルとの関係を着実に強化してきた。

特にアラブ首長国連邦（UAE）は、イスラエルにとって地域で2番目に大きな貿易相手国となり、

貿易額は年々伸び続け、昨年は年間取引額が40億ドルを超えた。両国は30年までに非石油部門で100億ドルまで引き上げる目標を掲げている。UAEでは1000社

以上のイスラエル企業が活動しており、相互投資や技術協力も頻繁に行なわれている。学術交流も盛んで、最近イスラエルの教育相はUAEを訪れ、AI（人工知能）やエネルギー分野などの連携を深める合意を締結している。

イスラエルのエルアル、UAEのエミレーツなどが両国を結ぶ直行便を数多く運航しており、今も関係が良好なことを表している。国交のないサウジアラビアがイス

発展に向けての イスラエルへの“苦言”

新井 均

真の友人としての責任

2022年2月号から「日本・イスラエルコラボレーションの道」と題した連載を始めて丸4年が過ぎた。当初は日本とイスラエルとの経済交流が発展することを願いながら、エコシステム・人的交流などに焦点を当てて両国のコラボレーション事例を紹介してきた。同時に、あまり経済分野に縁がないかもしれない本誌読者にも、ビジネスへの興味を持っていたいという願いもあった。しかし、ハマス・イスラエル戦争が勃発した23年12月号からは、メディア報道に関わる内容を中心に連載を続けてきた。

戦争は一段落したが、今後の日本とイスラエルの関係はしばらく不透明な状況が続くかもしれないと考え、今回で連載を一区切りとさせていただくことにした。この場を借りて、4年間お付き合いいただいた読者の皆様に御礼を申し上げたい。

最終回にどうしても書きたかったのが、イスラエルへの“苦言”である。戦争という困難な状況に置かれたイスラエルに対して、日本イスラエル親善協会理事という立場としてだけではなく、多くのイスラエル人の友人がいる一個人としても、できる限りの支援活動を行なってきたつもりである。その活動を通して再認識したことは、「困難な時にこそ支え合うのが眞の友人である」と同時に、「おかしいと思うことがあれ

日本の非常識からみた中東の非常識

・・・・・

ガザの環境汚染問題

—ハマスを“選んだ”者の責任

○日本の屎尿処理の今むかし

旅と酒を愛した歌人若山牧水は、大正4年3月、夫人の病気療養のため、一時三浦半島に転居した。転居先周辺を歩きまわった記事の中に、次のくだりがある。

「……遠く相模湾の方には夏の名残の雲の峯が渦巻いて、富士も天城も

燐くすぶった光線に包まれて見えわかぬ。
眼下の松輪崎の前面をば戦闘艦だか

巡洋艦だか大きなのが揃つて四隻、

どす黒い煙を吐いて湾内を指してゐ

る。此頃館山港に三十隻からの軍艦が集つて、それから垂れ流す糞便で所の者は大困りだといふ二三日前の誰かの話を不図思ひ出した」

（『旅とふる郷』第四編・岬の端）

汚い話で恐縮であるが、戦前日本では1人当たりの排出量は1日平均400グラムと言っていた。この艦隊を小さく見積もって戦艦1、巡洋艦3、駆逐艦26とすると、乗員数は最低でも6200人、毎日少なくとも2・5トン程が館山周辺に排出されていたことになる。

滝川義人

筆者が昭和31年の春に上京した時、中央線のお茶水駅で、線路沿いの神田川左岸や水道橋寄りに、数隻の係留団だん平船が見えた。あれは何かと出迎えに来てくれた先輩に問うと、先輩はニヤリと笑つて答えなかつた。

環境省によると、都になる前の東京では、近場の品川沖やお台場沖付近に屎尿しようをダルマ船や伝馬船で運搬、投棄していた。1955年4月の全国市長会議の調査では、当時全国で77隻の海洋投棄船が運用されて

ガザ停戦

戦争は終わったのか

齋藤真言

ともできるだろう。しかしその実態は依然として多くの部分が不透明である。本稿では、この停戦がなぜイスラエル国内から見えにくいのか、その成立に至る流れと背景を振り返りつつ、現状をお伝えしたい。

合意に対する懸念と疑問点

2023年10月7日、ハマスによるイスラエルへの奇襲攻撃に端を発した今回の戦争は、その後イスラエル国防軍（IDF）による大規模な作戦を通じ、ハマスやイスラム聖戦との激しい戦闘が続けられてきた。一方で、人質251名の全員解放を目指して交渉も継続してきた。

その結果、人質は段階的に解放され、23年11月の第1次人質解放協定に続き、25年1月には第2次人質解放協定に従って、生存人質30名と死亡した人質8名の遺体引き渡しが実

幾多の戦火を乗り越えてきたイスラエルにとって、現在のガザ戦争は過去最長の戦いとなっている。戦闘勃発から約2年半が経過しようとしているが、現在ガザ地区内で大規模な戦闘はほとんど発生しておらず、日々のニュースとして報じられる機会も著しく減少している。そのため、この戦争はすでに終戦を迎えたと受け止められがちである。

しかし実情は、終戦ではなく、あくまで一時的な停戦に過ぎない。昨

「失われた10部族」の探索

田中猪夫

イスラエルビジネスの方針

前回書いたように、「スケジュー
ラー」の会社との日本国内における
独占販売契約を締結したことで、イ
スラエルとのビジネスは単なる机上

の空論ではなくなった。そこで、イ
スラエルビジネスに向けた具体的な
事業計画を策定し、資金調達に踏み
切ることにした。この計画では、次
の2点を大前提とした。

- ①スタートアップは「多産多死」の
宿命を持つこと
- ②イスラエルの技術は、あくまで自
社コアビジネスの「付加価値」と
して活用すること

でも同様の傾向があり、資金調達に
成功しても収益化に至る企業は一握
りだ。このため、日本に導入する技
術についても、経験則として「10社
に1社が成功すれば良い」という前
提で検討する必要があると考えた。

また、自社ビジネス拡大のために
イスラエルの技術そのものを中核に
据えてしまうと、対イスラエル依存
度が高まりリスクが大きくなる。そ
こで、自社の既存事業を着実に強化

ベンチャーアクション投資が盛んなアメリカ
でさえ、資金調達後のスタートアップ
の約90%が失敗すると言われるよ
うに、その成功確率は決して高くな
い。スタートアップ大国イスラエル

静かなる誠実

池田 裕

●さわやかな風は松林を抜けて

私が最初に学んだ大学は小さな大学だったが、阿武隈山麓にあるキャンパスは自然豊かで広々としていた。なだらかな丘陵を利用した隣接のゴルフ場との間には松林が目印代わりにあるだけの地続きで、キャンパスを包む空気は開放感に溢れていた。背後の阿武隈山地から松林を抜けてくる風はさわやかで心地よく、前方には青い大洋の水平線を望むこともできた。海岸まで歩いて12～13分で行けた。今から67年前、太平洋戦争終戦から14年が経っていた。

大学では英語・英米文学を幅広く学び、授業ではシェイクスピアの戯曲、メルヴィルの『白鯨』、スティーブンソンの隨筆、そして多くの英詩や米詩を読んだ。読んだどの作品も素晴らしいが、それらの授業を担当した教師もそれぞれ個性豊かで素敵な人たちであつた。

シェイクスピアを楽しむことを教えてくれたのは上品な老紳士といった雰囲気の長谷川四郎先生で、自己紹介の代わりに、実はオセロゲームの発案者（長谷川五郎）は私の息子で、それを『オセロ』（シェイクスピアの4大悲劇の1つ）と名付けるよう提案したのは私です、とやや誇らしげに語っていたのを思い出す。

英米文学の背後には聖書という古典があることは事実

《サムエル記下9章》

ダビデの慈しみ

ベニー・ラウ
(毛利みつる
訳)



הרב בני לאו

● サウル家の生き残り

ダビデが東方のあらゆる民族と戦

つてゐる最中に、突然まるで1つの独立した物語のような章が入り込んでいます。前後の流れとはほとんど関係がないように見える章ですが、これはダビデがサウル家の生き残りに慈しみ(慈^ミヘセド)を施そうとする物語です。

ダビデは言つた。「サウルの家に、まだ残つた者はいるか。ヨナタンのために、私は彼に慈しみを施そう」。さて、サウルの家に奴隸がいた。彼

の名はツィバ。彼はダビデのところに呼ばれた。(1～2節)

ダビデは最愛の盟友、サウル王の息子ヨナタンのために、その血筋の

● 「王」ダビデの追求

22) という歪んだ権力の構図が見えてきます。そのツィバという奴隸が王の前に呼び出されました。

本章を読む際に注意すべきは、「ダビデ」という名前で呼ばれる場面と、「王」と呼ばれる場面との切り替わりです。冒頭でサウル家に慈しみを施そうとしたのは、個人としてのダビデでした。しかし、2節は次のように続きます。

王は彼に「あなたはツィバか」と言った。すると彼は「あなたの奴隸

「奴隸がいます」というものでした。ここで「奴隸が王となる」(箴言30・

使徒言行録の著者ルカ（上）

——アンティオキアのギリシア人

藤原豊樹

「アンティオケイア（アンティオキア）の出身で、職業が医師であったルーカス（ルカ）は「伝道旅行の大半をパウロス（パウロ）に同行し、他の使徒たちとも親しく交わり、彼らから学んだ靈魂の癒し「の業」の実例を、神の息吹きを与えられた二冊の書物に残している」（『教会史』Ⅲ(4) 秦剛平訳、山本書店）

○教父たちの証言

前回、ペントコステの祝福の原点であるマリアの家について述べました。そして「ペントコステの（日に降った）聖靈」が、ルカ自身にも、より鮮明になるでしょう。

行録において特筆されている理由も、より鮮明になるでしょう。

エウセビオスは、『ルカによる福音書』『使徒言行録』の著者は医者のルカで、彼はアンティオキア出身のギリシア人と伝えていました。しかし現代ではこれら2冊がルカの著作であることを否定する説もありますので、原文から新約聖書を忠実に読み解きながら確認していきましょう。

自己について述べてみたいと思います。それによって「ペントコステ史」の中でこう記しています。

「アンティオケイア（アンティオキア）の出身で、職業が医師であったルーカス（ルカ）は「伝道旅行の大半をパウロス（パウロ）に同行し、他の使徒たちとも親しく交わり、彼らから学んだ靈魂の癒し「の業」の実例を、神の息吹きを与えられた二冊の書物に残している」（『教会史』Ⅲ(4) 秦剛平訳、山本書店）

イエスが拝つた半シエケル

谷内意味

新約聖書には、当時のユダヤ教の戒律・習慣やヘブライ語の知識があるとより深く読める箇所があります。本コーナーでは、聖書を読む際に知つておくとちょっとだけ得した気分になる情報をお届けしていきます。初回は銀貨をくわえた魚のお話です（聖書の引用は聖書協会共同訳）。

一行がカファルナウムに来たとき、神殿税を集めの者たちがペトロのところに来て、「あなたがたの先生は神殿税を納めないのか」と言つた。ペトロは「納めます」と言つた。家に入ると、イエスのほうから

言いだされた。「シモン、あなたはどう思うか。地上の王は、税や貢ぎ物を誰から取り立てるのか。自分の子どもたちからか、それともほかの人々からか。」ペトロが「ほかの人々からです」と答えると、イエスは言われた。「では、子どもたちは納めなくてよいわけだ。しかし、彼らをつまずかせないようにしよう。湖に

これは4福音書の中でマタイのみが伝える物語です。マタイは元徴税人でしたから、お金にまつわる出来事として、特に心に残ったのかもしれません。

イスラエルを旅行し、ガリラヤ湖畔で食事されたことのある方はきっと食べたことがあるでしょう。そう、ピーターフィッシュ（ペテロの魚）と呼ばれているあの魚は、この故事が元になっています。

ちなみにこの魚は、クロスズメダイの一種と考えられています。親魚

○ギャラリー イスラエルの風 が贈る今月の一枚○



ユダの荒野 撮影・平岡真一郎

普段は何の植物も生息していないように見えるユダの荒野だが、春になると無数の小さい花々が咲き乱れる。サウルに追われてこの辺りを彷徨ったダビデも、こうした光景を見てホッと一息ついたのだろうか。

●手漉き和紙にプリントした、絵画のような独特な風合いをもつ作品です ●

サイズ

31×41 cm 22,000円

制作元：ギャラリー「イスラエルの風」
〒183-0042 東京都府中市武蔵台 2-18-24

お問合せは
ミルトスへ

ヘブライ語聖書対訳シリーズ 36

ヨブ記 I

1~21章

ミルトス・ヘブライ文化研究所編



シリーズ最新巻

ヘブライ語聖書対訳シリーズ 36

ヨブ記 I

1~21章

ミルトス・ヘブライ文化研究所編

A5判・並製160頁 本体3000円 (+税)

旧約聖書をヘブライ語原文から日本語に逐語訳する画期的シリーズの最新巻。
どんな名訳でも伝わりにくい原典の微妙なニュアンスに触れることができる。

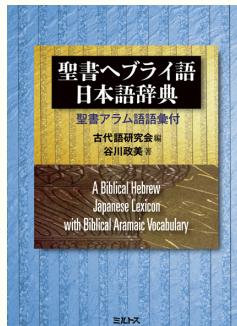
ヘブライ語で聖書を読むための辞典・入門書

聖書ヘブライ語
日本語辞典

聖書アラム語
語彙付き

谷川政美 著

A5判・並製 1264頁
12,000円 (+税)



今日からわかる
聖書ヘブライ語

聖書対訳シリーズ
の手引き

谷内意咲 著

A5判・並製 112頁
1,700円 (+税)

雑誌 89063-10